

来て!見て!知って!文化財

絹本著色阿弥陀聖衆来迎図
日本美術史上、特殊な形式の仏画

市内上中条の常光院が所有し、埼玉県立歴史と民俗の博物館にて保管されている「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」は、画面上部には浄土の世界を描いた「浄土図」が表現され、中程には正面向きの阿弥陀如来がその他の聖衆を引き連れ人間世界に下降する様子を示した「来迎図」が描かれています。また、最下段の左右には同寺院の祖、中条氏と思われる男女の姿が描かれています。この構図は大変珍しく、鎌倉時代後期(13世紀後半)に描かれた特殊な形式の浄土教絵画として貴重

であると評価され、重要文化財の指定が決定しました。

主尊の阿弥陀は、金箔の貼り付けにより金色に施され、中央脇の地藏・龍樹ならびに他の聖衆には一部金箔を含んだ極彩色が塗り込まれています。背景に描かれた、極楽浄土にある「宝楼閣」の光景は細部まで入念に表現されており、画面全体が格調の高い出来映えを見せています。【熊谷市立熊谷図書館にて秋に公開予定】

◆江南文化財センター ☎048-536-5062

